

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	北海道大学	整理番号	1801
プログラム名称	One Health フロンティア卓越大学院		
プログラム責任者	山口 淳二	プログラムコーディネーター	堀内 基広

(評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。 <input type="checkbox"/> B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。 <input type="checkbox"/> C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。 <input type="checkbox"/> D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。 <p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、複数の補助金事業を基盤とした大学院教育改革の戦略的プログラムとして、大学院教育改革ステーションの開設や One Health Ally コースの設置等による文系修士課程向けへの工夫もみられる。社会課題解決を目標とするプログラムであるが、人文社会科学や社会経済学系の視点については不足しており、社会科学系を含めた全学への波及効果については、一層の努力が求められる。なお、獣医学及び人獣共通感染症の領域では、北海道における大学間連携のあり方のモデルとなりうると評価できる。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性と、高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、キャリアパス支援委員会によりインターンシップを支援し、海外活動報告会等を通じた人材育成が促進されている。また、コロナ禍でのインターンシップの代替措置や大学独自の学生アンケートにより、課題に対する対応が進み、経済支援を含めた就学環境が整い、きめ細かなサポート体制が充実していることが評価できる。</p> <p>優秀な学生の獲得については、人材育成のために重要な4つのモジュールによる教育体系を構築し、獣医学部以外の卒業生特別選抜、外国人特別選抜、JICA 感染症プログラム等を利用し、多様な背景をもつ学生の獲得に努めており、留学生は半数を占め、国際的な教育が進められていることが評価できる。ホームページの内容の改善と更新により、その魅力を伝えることがなされており、今後は、社会課題解決の視点をより一層拡充する事により One Health Ally コースにおける社会科学系等の学生の獲得への一層の努力が望まれる。</p> <p>世界に通用する確かな質保証システムについては、リサーチアドバイザー制度や学位</p>

論文提出資格審査制度により3回のQEを経て、授与される仕組みが確立している。また、主指導教員は本プログラムの主査になれない等、公平性を確保している点が評価できる。

事業の継続・発展については、令和4年度に、大学院教育推進機構を設置予定であり、令和7年度には、学内共同施設としてOne Healthリサーチセンターを設置予定であり、特殊検査診断業務による自己収入の増加を目指していることが評価できる。